④　シス異性体　臭化水素酸ハロフジノン（シス異性体）17mg（16.5～17.4mg）を量り、塩酸（1→100）を加えて溶かし、500mLの全量フラスコに入れ、更に塩酸（1→100）を標線まで加えて500mLとする。この溶液1mLを全量ピペットを用いて量り、500mLの全量フラスコに入れ、塩酸（1→100）を標線まで加えて500mLとし、標準液とする。定量法により得た試料溶液及び標準液100μLずつを量り、③と同様な条件で、液体クロマトグラフ法により試験を行うとき、試料溶液中のハロフジノンの示すピーク面積は、標準液中のハロフジノンの示すピーク面積以下でなければならない（0.2%以下）。

乾燥減量　6.0%以下（1g，105℃，4時間）

強熱残分　乾燥した後29.0%以下（1g）

ポリスチレンスルホン酸　本品を乾燥し、その0.5gを0.0001gの桁まで量り、その数値を記録し、6mol/L塩酸試液50mLを加え、15分間振り混ぜ、遠心分離した後、上澄液を除く。この操作を更に4回繰り返す。残留物に水40mLを加え、振り混ぜ、洗液に硝酸銀試液を加えても混濁が生じなくなるまで水洗を繰り返し、残留物を105℃で12時間乾燥した後、その質量を0.0001gの桁まで量るとき、その量は、87.0%以下でなければならない。

$$\text{ポリスチレンスルホン酸の量（\%）}=\frac{\text{乾燥した後の質量（mg）}}{\text{本品の採取量（mg）}}\times 100$$

定量法　本品を乾燥し、その約0.5gを0.001gの桁まで量り、その数値を記録し、6mol/L塩酸試液約10mLを加え、分散させ、底にガラスウールを入れた内径10mm、高さ150mmのクロマトグラフ管に6mol/L塩酸試液少量を用いて洗い込み、クロマトグラフ管の下に250mLの全量フラスコの受器を置く。次に、6mol/L塩酸試液を用いて流量が約225mLとなるまで溶出する。その後、6mol/L塩酸試液を標線まで加えて250mLとする。この溶液1mLを全量ピペットを用いて量り、50mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて50mLとし、試料溶液とする。試料溶液につき、塩酸（1→100）を対照液として、波長243nm付近の極大波長における吸光度Aを測定する。

ハロフジノンポリスチレンスルホン酸カルシウム（$C_{16}H_{17}BrClN_3O_3$・Calcium Polystyrenesulfonate）の量（mg）$=\frac{A}{86.3}\times 125{,}000$

⑴　保存の方法の基準

気密容器に保存すること。

イ　製剤

⑺　成分規格

本品は、ハロフジノンポリスチレンスルホン酸カルシウム製造用原体に、賦形物質を混和した粉末である。

含量　本品は、定量するとき、1mgにつき、80μg以下であり、表示量の90～110%に相当するハロフジノンポリスチレンスルホン酸カルシウム（$C_{16}H_{17}BrClN_3O_3$・Calcium Polystyrenesulfonate）を含む。

確認試験

①　本品の表示量に従い、ハロフジノンポリスチレンスルホン酸カルシウム製造用原体0.02gを含む量を量り、6mol/L塩酸試液50mLを加え、約15分間かき混ぜた後、ろ過する。メタノールに浸漬した多孔性スチレンジビニルベンゼン共重合体精製樹脂約2mLを水で2回洗浄した後、これを先のろ液に加え、15分間かき混ぜ、ガラスろ過器でろ過する。この樹脂を水20mLで2回洗った後、メタノール5mLを加え、かき混ぜ、ろ過する。このメタノール溶液を試料溶液とする。別に、ハロフジノンポリスチレンスルホン酸カルシウム製造用原体0.02g（0.015～0.024g）を量り、同様の操作で得られる溶液を標準液とする。試料溶液及び標準液それぞれ10μLずつを量り、以下ハロフジノンポリスチレンスルホン酸カルシウム製造用原体の確認試験①を準用する。

②　定量法で得た試料溶液につき、吸収スペクトルを測定するとき、波長243～247nmに吸収の極大を示す。

定量法　ハロフジノンポリスチレンスルホン酸カルシウム製造用原体0.05gを含む量の本品を有効数字3桁まで量り、その数値を記録し、6mol/L塩酸試液20mLを徐々に加え、よく振り混ぜ、発泡が収まった後、底にガラスウールを入れた内径10mm、高さ150mmのクロマトグラフ管に6mol/L塩酸試液少量を用いて洗い込み、クロマトグラフ管の下に200mLの全量フラスコの受器を置く。次に、6mol/L塩酸試液を用いて流量が約180mLとなるまで溶出する。その後、6mol/L塩酸試液を標線まで加えて200mLとする。この溶液10mLを全量ピペットを用いて量り、50mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて50mLとし、試料溶液とする。試料溶液につき、塩酸（10→100）を対照液として、波長245nm付近の極大波長における吸光度Aを測定する。

ハロフジノンポリスチレンスルホン酸カルシウム（$C_{16}H_{17}BrClN_3O_3$・Calcium Polystyrenesulfonate）の量（mg）$=\frac{A}{78.5}\times 10{,}000$

⑴　保存の方法の基準

ハロフジノンポリスチレンスルホン酸カルシウム製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

⑼　表示の基準

本品の直接の容器又は直接の被包に、次の文字を記載すること。

使用上の注意　この飼料添加物は、鶏に過剰投与した場合発育障害がおこるので、定められた添加量を厳守するとともに、均一に配合するよう注意すること。

(129)　サッカリンナトリウム

ア　製造用原体

⑺　成分規格

含量　本品は、120℃で4時間乾燥した後、定量するとき、サッカリンナトリウム（$C_7H_4NNaO_3S$）99.0%以上を含む。

物理的・化学的性質　本品は、無色～白色の結晶、白色の結晶性粉末又は白色の粉末で、味は極めて甘く、10,000倍の水溶液でも甘味がある。

確認試験

①　本品0.5g（0.45～0.54g）を水10mLに溶かし、希塩酸1mLを加えて1時間放置し、生じた白色結晶性の沈殿をろ取し、よく水洗し、105℃で2時間乾燥するとき、その融点は、226～230℃である。

②　本品20mg（19.5～20.4mg）をレゾルシン40mg（39.5～40.4mg）と混和し、硫酸10滴を加え、静かに加熱し、混合物が暗緑色になったときに放冷し、これに水10mL及び1mol/L水酸化ナトリウム試液10mLを加えて溶かすとき、溶液は、緑色の蛍光を発する。

③　本品0.1g（0.05～0.14g）を1mol/L水酸化ナトリウム試液5mLに溶かし、静かに加熱して蒸発乾固し、さらに、炭化しないように注意しながら融解し、アンモニアの臭気が発生しなくなったときに放冷する。残留物を水約20mLに溶かし、希塩酸で中和した後、ろ過し、ろ液に塩化第二鉄試液1滴を加えるとき、紫～赤紫色を呈する。

④　本品を灰化して得た残留物は、ナトリウム塩の定性反応を呈する。

純度試験

①　溶状　本品を粉末にした後、その1g（0.5～1.4g）ずつを水1.5mL及びエタノール70mLにそれぞれ溶かすとき、これらの溶液は、無色で、澄明でなければならない。